

令和3年9月

公立学校共済組合東北中央病院 地域医療連携室・入退院支援室

NO.54

TEL 0120-703-995 FAX 0120-168-990 代表 TEL 023-623-5111

医療連携につきましては、日頃よりご協力いただき、誠にありがとうございます。

▷ 第19回 和GO懇話会

令和3年9月9日（木）メトロポリタン山形で、「第19回和GO懇話会」を開催しました。新型コロナウイルス感染予防対策のため、参加者の皆様には消毒及びマスク着用のご協力をお願いし、会場内では座席間隔の確保と換気を徹底しての開催となりました。関係医療機関の先生方にご参集いただき有意義に開催されましたことに、厚く御礼申し上げます。

一般演題

『食後高血糖の治療について』

演者：糖尿病内科部長 岡村 将史 医師（写真左）

座長：循環器科部長 須藤 直行 医師（写真右）



糖尿病治療は、合併症を予防し健康な人と変わらない生活を送れるようにすることが目標となります。長年の研究結果から、年齢を重ねるほど食後血糖が高くなりやすく、それに伴い心血管死が高くなると言われています。近年は多くの薬剤が製造されており、その中から患者の状態に適したものを選択することとなります。血糖測定についても持続モニタリングが可能な機器や、スマートフォンの遠隔操作でインシュリン量を調整し自動投与できる機器が開発されるなど、患者の年齢や基礎疾患等を踏まえて、個々の状態に即した糖尿病治療が行われていることをお話いただきました。

特別講演

『前立腺癌の新たな治療選択～重粒子線治療～』

演者：山形大学医学部 腎泌尿器外科学講座 教授

土谷 順彦 先生（写真左）

座長：外科部長 橋本 明彦 医師（写真右）



前立腺癌の診断では腫瘍マーカー：PSA でのスクリーニングの他、山形大学医学部附属病院ではMRIでの診断・治療を開始したことで、よりの確に病変が疑われる個所を特定および標的生検が可能になりました。また同院では国内に7カ所しかない重粒子線治療施設の1つとして運用が開始され、県内外から患者を受け入れています。世界初の病院接続型施設で、病院隣接のため治療に合わせて診察を受けやすく、また合併症を抱える患者も通いやすい利点があります。前立腺癌治療における重粒子線治療や手術療法には、いずれも利点と欠点があり、その患者の年齢や置かれている状況によっても選択が変わります。治療に際しインフォームドコンセントを行い、患者及び家族が納得した上で治療が受けられるように関わっていく必要があると、貴重なお話をいただきました。

今後も地域医療の発展のため、先生方の御要望をお聞きしながら尚一層の努力を重ねて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

